

## 第31回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成24年3月9日（木）19時00分から21時00分
- 2 開催場所 新ごみ処理施設建設工事現場事務所 1階 会議室
- 3 委員出欠 出席11人  
出席委員 大江宏(会長)、河本美代子、草苺正行、小林隆志、小林義明、  
田中茂利、寺嶋均（副会長）、中澄子、藤生よし子、増田雅則、  
松井和夫
- 4 出席者  
事務局 浜三昭、内藤和男、澤田忍、荻原正樹、佐藤昌一、奥山尚、田中實、深  
井恭、飯高秀男、和田良英、飯泉研  
J F Eエンジニアリング株式会社  
パシフィックコンサルタンツ株式会社
- 5 傍聴者 3人

### 【議事次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
  - (1) 第30回市民検討会議事録の確認
  - (2) 第18回、19回ふじみ衛生組合地元協議会について
  - (3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について
  - (4) 災害廃棄物について
- 4 協議事項  
環境学習機能についてのまとめ
- 5 その他
- 6 閉会

### 【配布資料】

#### 議事次第

【資料1】 第30回ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

【資料2】 環境学習機能について（第3期まとめ）素案

**【会議録】**

午後7時 開会

1 開会

**【事務局挨拶】**

**【配布資料の確認】**

2 会長あいさつ

**【会長挨拶】**

3 報告事項

(1) 第30回市民検討会議事録について

**【事務局説明】**

会 長 : 何か気づいた点はあるか。

A 委員 : 会議録について、一般的に公表されているのかどうか、確認したい。

事務局 : 次回の会議で内容を確認いただき、間違いないことを確認してからホームページに載せるという手続きになっている。

会 長 : ほかに気づいた点は事務局へ連絡するように。

(2) 第18回、19回ふじみ衛生組合地元協議会について

**【事務局説明】**

(3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

**【事務局説明】**

(4) 災害廃棄物について

**【事務局説明】**

会 長 : 何か気づいた点はあるか。

D 委員 : 東京23区で2月の終わりに住民説明が終わったとのことだが、住民からどういった反応があったか、情報があれば聞かせてほしい。

事務局： 世田谷の説明会に参加した。搬出するときに十分にテストをして基準以下のものだけを持ってきているという説明であったが、説明会の参加者は心配であり、ほとんどがその話であった。東京都の説明では、女川町でも万全を期していると同時に、説明のシステムをつくっている。心配な方は現地に来て見学できるというような見学コースも今整備中であるということであった。また、女川町だけでなく、(財)東京都環境整備公社でも十分に確認をして搬出をしている。全部放射線も計測しているという説明であった。小さいお子さんをお持ちの若い方の参加者が多かったように見受けられた。

会長： 他に何か意見はあるか。

A 委員： 灰が8,000ベクレル以下だったら大丈夫だとのことだが、災害廃棄物を燃やす前の基準、その基準をクリアしたら受け入れてもいいという数字があるのか。困っているんだからお互いに助け合っていかなければならないと思うのだが、新聞見ると反対しているところもある。市民感情を、受け入れられるような説明が足りないのかなと思う。

三鷹の環境センターの放射性物質の測定結果は、7月から1カ月に1回ずつ測定している。測定結果を見ると低い値だということがわかるのだが、そういうところもしっかりPRしておいたほうがいいと思う。それで、その値と向こうから受け入れたときの値とがどういう変化しているのかということもわかるようにしていかなければ、一般市民感情として嫌だという人も出てくるのではないか。

また、公社の運転資金貸付とは、国かどこからか助成金や補助金が出るのか。

事務局： ふじみはまだ施設が完成していないのでまだ先の話になる。

ほかに先行しているところの説明会等に私どもも参加して、わかりやすい説明ができるように、また安心できるような数値も提示しながら、ふじみで受け入れるようなときには、わかりやすい説明をしたいと思います。

運転資金貸付については、災害廃棄物を受け入れるにあたり、受け入れに対する経費を見てくださいという話は聞いている。それがどの程度なのかは把握していない。大体、例えば1キロ当たり幾らという形で、そ

れの受け入れたところに支払いがあるのではないか。

災害廃棄物の受入基準、安全基準については、ふじみ衛生組合新ごみ処理施設はストーカ炉なので放射性セシウムの濃度が、ごみ1キログラム当たり240ベクレル以下のものが安全基準である。それ以下のものを受け入れることになる。

A 委員： シーベルトとベクレルの関係は。

事務局： 廃棄物の段階で240ベクレル以下であれば、それが濃縮されて焼却灰に移行したとしても、焼却灰では1キロ当たり8,000ベクレル以下になるだろうということである。そのレベルであれば、人間が1年間に受ける年間線量の限度である1ミリシーベルトを下回る濃度になるということである。

E 委員： どれだけ説明しても、テレビなどで放送されているのを見ると、どこまでいったら一体市民が受け入れるのか、そのことを私は非常に問題視している。受け入れる側としては、数字的なもので、はっきりさせたほうがいいと思うが、やはり幾ら説明しても、これは子供のために将来だめだということが基本にあるような気がする。そういう点では、行政の行う説明に対する信頼関係というものを築く必要があると思う。

会 長： ふじみの施設が完成するのが、受け入れが始まってからちょっと後である。最初からこういった基準があつての話であるが、先に受け入れたところの様子を見ることもできる。

他に何か意見はあるか。

F 委員： 焼却灰の処分は、埋め立てられる。50センチ以上の覆土をやるから大丈夫だという説明があるが、その場所は永久に、家も建てない、何もしないということがわかっていればよいが、何十年も先になって、そこは昔処分場だったということが忘れられたときにどうなるのか。セシウムはすぐになくなるものではない、漏れてこないか、何十年もたつてから人間の体とか食べ物とかに影響するのであればすごく心配である。

会 長： リスクの問題はあるか。

副 会 長： 参考になるかどうかわからないが、私自身は今から30年ぐらい前、胃の手術をした時にレントゲンをたくさん撮られた。おそらく1キログラム

ム当たり200ベクレルぐらいの放射能をいつでも放散している立場にある。普通の人でも100ベクレルぐらいの放射能を人体に持っている。

ところが、放射能のことに非常に神経質な方、例えば、若いお母さんが、子供にほんの少しでも放射能が当たったらと心配するが、そのお母さんも1キログラム当たり100ベクレル、それ以上の放射能を実は体の中に、生活している中で取り込んでいる。放射能ゼロの世界というのはこの世の中にないわけである。自然界の中にもいろいろある。ラドン温泉を健康に良いと言って、放射能そのものを出す鉱石をお湯の中へ入れていた。自然界で放射能自体ゼロということはありません。

そういう中でいろいろ数値が出ているが、年間1ミリシーベルト以内の被曝量であれば問題ないとか、空間線量だとかいろいろなもののある中で、自然状態でも放射能はいつもある程度濃度があり、それにプラスして幾らなら人体に影響がないレベルであると一応言っている。確かにただ数値だけだとわかりにくい面がある。そういうことをわかりやすく説明することを工夫していかなくてはならない。

とにかく放射能のリスクゼロということで、言う方が結構多いが、今ちょうどパニックのような状態にあるのではないか。もう少し冷静に、自然界にも放射能というものは存在するし、人間の体自体の中にも、成長する中でそういうものを取り込んでいるということを理解する必要がある。

- D 委員： 地元協議会の中でも同様の説明を受けた。地元協議会の委員の方々は、こんな話はとんでもないということではなかった。災害廃棄物の受入自体は、好意的に受けとめていた。東京直下型地震が明日起こってもおかしくないと言われるときに、東京都が瓦礫の山になる可能性もあるわけである。当然自分たちだけで処分できるわけがない。そのときに助けもらうということもあるので、断るわけにはいかない思う。

地元協議会でも問題になったのは、安全性の問題である。私自身は、この問題に対してどう考えるかということだが、多くの専門家の先生方が瓦礫で240ベクレル以下だったらまず安全と考える。世の中に絶対はないのであるから、これを1つの目安にして我々は判断したらよいの

ではないか。当然、技術、科学は日進月歩するから、この値はもしかすると変わるかもしれない。そのときは、それはしようがない。絶対がない以上、現在の技術水準、科学水準でこれが安全だと思うなら、もう皆さん信じましょうと、若い奥様方の気持ちはわかるが、現在の科学水準で多くの専門の方々が240ベクレルならいいと言ったのであれば、それを皆さんと一緒に信じる。そういう道しかないのではないかと私は思う。

会 長 : 本当に私の言いたいことも言っていただいたような気がする。  
協議事項の4、環境学習機能についてのまとめに入りたい。事務局、説明お願いしたい。

#### 4 議題

環境学習機能についてのまとめ

##### 【事務局説明】

会 長 : 前回のたたき台のときもよくまとまっているという意見をいただいている。その上で前回出た意見が、今回ほぼ反映されていると思う。

何か意見はあるか。

B 委員 : 「環境問題や資源問題、ごみ減量、3R、ごみ処理技術などが広く学べるような内容にする。」この一文で集約されている。非常に意味深長な内容のことを説明しているが、「ごみ減量」は「3R」の中にあるので「ごみ減量」という言葉は要らないのではないか。

そこで、補足したいことが1点。「できる限り現物を展示してほしい。」というところについてである。前からも同じ主張をしているが、小・中学生の見学が多くなると思うので、生活に即した具体的な説明を取り入れてほしい。例えば、発電量などは数字で示すのもいいが、具体的に両市の世帯でいうとどのくらいの消費電力になっているのか、そのように置き換えた説明が必要である。標準家庭の何軒分の1日の電気量だとか、あるいは焼却炉の1時間当たりのごみの量は、果たして何千世帯分の1日の標準ごみの量なのかとか、具体的に同時に説明をされていると大変有効であると思う。

それから、「見学者自らが考え、答えを発見できるよう」、ここは非常に大事なところで、発見的に、課題解決的に見学してもらおうという工夫。問題を投げかける視点が大事ではないか。

文言でいえば、「展示物等を工夫する。」ではなく、「学習資料及び展示物等を工夫する。」が良いと思う。

また、太陽光発電も3階でやるわけだが、その内容、エネルギーの用途はどこに表示されるのか。燃焼状況の映像がどこかに表示されるのか、教えてほしい。

会 長 : 質問についてどうか

事務局 : 1点目の太陽光発電の関係であるが、今回ふじみ衛生組合では、10キロワットの太陽光発電を予定している。皆さんが見学に来るとご案内する3階の大研修ホールで太陽光発電の発電量、蒸気タービンによる発電量の表示装置を設置する。

2点目の焼却している燃焼の状況をどこで確認できるのかということであるが、まず1カ所目は、大研修ホールの大型プロジェクター。2カ所目は、2階の中央制御室のモニターで見ることが出来る。3カ所目は、2階に炉内燃焼状況モニターを設置する。そこでも燃焼状況を確認できる。

会 長 : 小林委員からの「ごみ減量」は要らないとの指摘、これは私もそう思うので、削除してほしい。

事務局 : 了解した。

会 長 : 他に何かあるか。

E 委員 : 展示の問題で提案したい。可燃物の中に入れてはいけないものの実物展示が消費者センター祭りで非常に好評であった。見たらびっくりするようなものがある。新聞紙でくるんで出されてしまうようだ。入れてはいけないもの、非常に危険なものを実物展示することは重要である。

会 長 : どこかスペースはあるか。

事務局 : 2階に「処理不適物展示」があるが、今私どもが想定していたのはあくまでも焼却炉、燃やした後出てきたもの、例えば生ごみと一

緒にフォークやナイフを入れてしまい、それが焼け焦げて出てきた  
というようなものである。E 委員の趣旨は、その前の段階でこう  
いったものは入れてはいけない、というような、もう少し広い意味  
での展示ということだと思いで、その辺については工夫をしたい。

会 長 : 他に何かあるか。

I 委員 : 1階の図書資料コーナーの図書は大体どの程度の量になるのか。  
また、子供たちは子供たちで、大人とは違った柔軟な考えをもって  
いるので、夏休みなどに子供たちだけの会議、環境会議のようなも  
のを開いてもよいのではないか。

会 長 : I 委員からの提案については、学習機会の創出の中でも、「各種  
イベントを開催するなど、積極的な情報発信を行う。」とあり、こ  
のソフトの部分を考えていく中の1つに入れ込んでいける余地は  
十分あると思う。それと、先ほどの展示についても、固定的ではな  
く、入れかえていくなど、いろいろ工夫することこの中に盛り  
込まれていると考えている。

事務局 : 図書コーナーについては、具体的な冊数はまだ考えていない。こ  
こは図書館ではないので、たとえば、両市の図書館から要らなくな  
った本、市民の皆さんが是非にと持ってきてくださるような本、そ  
れがリサイクル、リユースの精神にもなると考えている。

会 長 : ただ、要らなくなったものをではなく、よりテーマ性があるもの  
を入れてほしい。

B 委員 : ビニール袋類。汚れてないもの、汚れてるもの含めて、どのような流  
れで処理されるのか、新ごみ処理施設との関連はどうなのか。

事務局 : プラスチックはあくまでも資源として集めており、これを燃やす  
ということはない。リサイクルできるものは基本的にはすべてリサ  
イクルされる中にはどうしてもリサイクルできないプラスチックも  
ある。例えば、生ごみが付着しているようなものはリサイクルでき  
ないので、焼却してエネルギー回収、熱回収をしているが、将来的  
には新ごみ処理施設ができれば、新ごみ処理施設で焼却をして、そ  
の熱エネルギーを発電に活用しようということである。



B 委員： わかった。見学者にもわかるように説明してほしい。  
会 長： 両市で分別の仕方は、しっかり書いてあるか。  
事務局： 書いてある。  
会 長： 指導していると思うが、改めてよりわかりやすくということだと思  
う。

第3期の環境学習機能についての取りまとめ、素案をこの辺でま  
とめたいと思う。今日の意見を含め、文言等を修正して、まとめに  
したいと思うがいかがか。

【委員多数より「賛成」の声あり。】

会 長： 最終案については、もう一回皆様方のほうへお諮りしたいと思  
うが、会議ではなく、事務局のほうでもう一回精査し、私と副会長と  
で目を通したものを最終案として皆様のほうへ郵送したい。それを  
確認していただき、第3期のまとめとしたいが、いかがか。

【委員多数より「賛成」の声あり。】

## 5 確認事項

【次回は、平成24年5月31日（木）の午後7時に開催】

## 6 閉会

午後9時00分散会